



伊達市長

菊谷 秀吉

# 新年の

# ごあいさつ

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろから市政の推進に対しまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日本社会のあり方を根底から覆すような未曾有の大災害「東日本大震災」が思い起こされます。

当市の姉妹都市、宮城県亘理町や山元町などを含む東北地方太平洋沿岸地域で多くの尊い命が犠牲となり、いまなお多くの被災者の皆さまが、仮設住宅などで不自由な生活を続けられていることに、改めて心からお見舞いを申し上げますとともに、本市におきましても、これまでの有珠山噴火に加え、津波対策も含めた総合的な防災計画の見直しについて、決意を新たにしたところであります。このような激動の1年間ではあり

ましたが、『次の世代へ安心のバトンを引きつぐ』ための歩みを着実に進めて参りました。

「食」「教育」「生きがい」「環境」の4項目を重点政策に位置づけた「第六次伊達市総合計画」に基づき、『自然を育み未来に向かって挑戦する人にやさしいまち』の実現に向け、大型事業にも取り組んで参りました。本年4月には防災機能も兼ね備えた新・総合体育館が完成し、また、健康づくりの場として有珠地区に「まなびの里公園」パークゴルフ場が整備され、さらに食や観光資源が豊富な「伊達」をPRする『食と観光情報』の発信拠点として「観光物産館」がリニューアルオープンすることになります。

いずれの施設もまちの魅力を高め、市民の皆さまだけでなく、伊達を訪れる多くの方に愛される存在になれるものと確信しておりますが、今後、も充実した行政サービスの提供で、

皆さんのご期待にお応えできるよう職員一丸となって努力して参ります。最後に、伊達市は本年4月に市制施行40周年を迎えます。

先人たちの功績に深く感謝し、これまでの歴史を一区切りとして、また、輝かしい未来に向けての新たなスタートとして記念すべき年を迎えるにあたり、本市では市民の皆さまとの協働により、貴重な地域資源などを活用しながら、記念事業を実施したいと考えておりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年も市民の皆さまにとって、夢と希望に満ちた健やかな一年になりますようお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。



伊達市議会議長  
寺島 徹

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げますとともに、日頃から市政および議会運営に対し温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、東日本を襲った巨大地震と津波により、未曾有の大災害が発生し、多くの尊い命が犠牲となりました。

被災地が受けたダメージは計り知れないものがありますが、今、日本各地では一日も早い復興を願ひ、「がんばろう日本」「がんばろう東北」のスローガンのもと、さまざまなかたちで被災地への応援が続けられています。

本市においても、被災された姉妹都市・宮城県亘理町イチゴ生産者の受け入れ支援を始め、東北復興支援イベントとして姉妹都市などの特産品販売に取り組んできたほか、伊達商工会議所では、亘理町の要請によ

り現地の復旧工事にあたる建設業者の派遣準備が進められているところです。

一方、地方自治体を取り巻く環境は、地方分権の進展や長引く景気低迷による経済情勢の悪化、さらには震災の影響も加わり、厳しい財政状況を強いられるものと予想されます。

このような中、本市においても、少子高齢化への対応を始め、産業の振興、中心市街地の活性化など多くの課題を抱えており、今後ますます行政運営の創意工夫が求められるとともに、市政の意思決定機関としての市議会の果たす役割と責任は、今までに増して大きいと痛感しております。

本市議会においては、昨年の改選期を前に議員定数削減とともに選挙区を設け、伊達選挙区17名、大滝選挙区1名の18名で新たなスタートを切ったところであります。

20代の議員も誕生して幅広い年代

層の議員構成となったことから、さまざまな市政課題の解決に向け、各世代の意見を十分お聴きし、必要な議論を重ねて市の政策に的確に反映させて参りたいと考えております。

また、議会に対する市民の皆さまの厳しい視線をしっかりと受け止め、開かれた議会を目指すとともに議会への関心を高めてもらうため、今後とも引き続き市議会の改革・活性化に誠心誠意努力して参る所存であります。

最後になりましたが、本年も市民の皆さまにとって素晴らしい年になりますよう、ますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭にあたってのあいさつといたします。